

『投稿！わがまち自慢の一枚』



埼玉県川口市

川口市は埼玉県の南の玄関口として、荒川を隔てて東京都に隣接し、人口は60万人を超え、中核市では全国で2番目の規模を誇る自治体です。

昭和8年に1町3村が合併して誕生した川口市は、平成23年の鳩ヶ谷市との合併、平成30年の中核市への移行を経て、令和5年には市制施行90周年を迎えました。

古くから鋳物や機械、植木などの産業が中心となり市の成長をけん引し、現在でも多くの事業所などが所在する「ものづくりのまち」として発展を続けています。また、本市は東京に隣接し、鉄道や高速道路など交通利便性の良さが大きな魅力である一方で、市内には、1年を通して様々な花や木などを楽しめる「グリーンセンター」や、首都高速道路初のハイウェイオアシスと一体的に整備した「イイナパーク川口」などの大規模な公園をはじめとした、豊かな自然が残っています。

こうした本市の豊かな自然の中には、「桜」の名所が多いことも特徴であり、近年写真ファンが多く訪れるなど注目を集めています。その中でも特に本市の地域名が付けられた早咲きの「安行桜」は多くの市民に親しまれています。この「安行桜」は昭和20年代の初頭に、ある市民が当時の県立植物見本園の所長から譲り受けた桜の苗木を育てたところ、あまりにもきれいな花を付けていたので、品種を問われることも多かったそうです。しかしながら当時はまだ名称がなく「こんなにいい桜に名称がないのはかわいそう」ということで植木の里安行にちなみ「安行緋寒桜」と名付けたと言われています。

安行桜は、染井吉野が咲く3月下旬よりも一足早く、3月上旬から咲き始めることから、川口ではより長く桜を楽しむことができます。

本市の安行桜の名所としては埼玉高速鉄道の川口元郷駅前や安行原にある密蔵院などが有名です。

本稿が世に出る頃には安行桜は散り、染井吉野が美しく咲いている頃だと思えますが、本市にお越しの際はぜひ安行桜をご覧ください、桜の違いを楽しんでいただければと思います。



密蔵院の安行桜

※アカデミアでは、「広報の効果的实践」研修の修了生や自治体の広報担当者を対象に、キラリと光るふさと自慢のフォトスナップを、表紙の写真として募集しています。詳しくは市町村アカデミー調査研究部043-276-3127までお問い合わせください。